

プラチナ人財産業イニシアティブ

AIが進化するほど、人の「想い」が必要になる。
意思と情動でひらく、生涯成長社会の実現。

趣意書

2026 年 12 月

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

1. プラチナ人財産業イニシアティブへのお誘い

プラチナ構想ネットワークは、「地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能にする社会」をプラチナ社会と定義し、その実現を目指してきました。自然と文明、技術と感性が調和する未来を、私たちは本気で追求しています。

森林産業、再生可能エネルギー産業など、社会を支える基盤づくりを進めています。しかし、どれほど優れた仕組みも、それを生み出し、動かすのは「人」です。AIをはじめ技術が急速に進歩し、社会が大きく変化する時代には、「人」もまた、生涯にわたって学び、成長し続ける必要があります。

人が何歳になっても新しいことに挑戦し、成長し続けることのできる環境を社会全体で整える。それを持続的な仕組みとして支えるのが、私たちの考える「人財産業」です。

日本の学びは長く「スズメの学校」のかたちで、一斉授業と知識偏重が中心でした。これからの社会は、誰もが学び手であり教え手となる「メダカの学校」のように、互いに学び合うことが必要になります。子どもが胸を躍らせる「遊び」と「探究」、おとなが殻を破る「越境」、実社会での挑戦——こうした経験を多くの人が共有することが、**意思と情動と責任感**を育み、人生 100 年時代の可能性を大きく広げます。

AI が知識やロジックを担い、さらにはフィジカル AI が自ら行動する時代になっても、AI は結果に責任を負うことはできません。自ら問いを立て選択する**意思**、他者や世界と響き合う**情動**、そして結果に対する**責任**、それは人間のものです。こうした「人」は、自ら考え、行動し、協同し、責任を取る、そうした経験によって育つのです。

国内にはすでに、探究、遊び、越境、学び直しなど、新時代にふさわしい学びを実践している方が多くおられます。しかし、それらはまだ一つの大きな流れにはなっていません。プラチナ構想ネットワークは、特に、

- こどもの探究と遊び
- おとなの越境と学びの広がり
- 学び、とりわけ公教育への資金循環

を一体として捉え、個々の取り組みをつないで、すべての「人」の生涯成長を社会全体で支える新しい領域、すなわち人財産業を社会に根づかせます。



人間の可能性を諦めない、真のプラチナ社会をともに創り上げましょう。
会員の皆様の温かいご理解、そして熱いご参加を、心よりお待ちしております。

2026 年 12 月



投社団法人プラチナ構想ネットワーク
会長 小宮山 宏

2. 企画の背景

なぜいま人財か

人財はあらゆる分野で常に最重要な問題であり続けてきましたが、現代は特に大きな転換期を迎えています。

一つは寿命の飛躍的な延伸です。

すでに女性の5割、男性の3割弱が90歳に到達する時代となり、成年後期をいかに豊かに過ごせるかが社会課題として浮上しています。教育機関は、卒業から100歳までの基礎を身につける場、そしてあらゆる世代の学びの伴走者として再定義が必要です。企業は、人が成年期の大半を過ごす場であるとともに、その後の数十年に向けて送り出し、あるいは迎え入れる場にもなります。個人は、学ぶ力を身につけ、人生を自ら豊かに作り上げていく存在となります。

もう一つは社会や技術の急速な変化です。

これまでの社会では、必要な知識や技能を効率的に習得し、決められた役割の中で能力を発揮することが重視されてきました。一方、価値観が多様化し、社会の変化が激しくなる中では、決められた正解を身につけるだけでなく、自ら問いを立て、選択し、社会と関わりながら行動することが求められています。AIをはじめとする技術の進展も、こうした社会の変化を加速させています。

また、人財の重要性は、長寿化や技術の進展によって初めて生じるものではありません。

どの時代においても、どのような年齢や環境にあっても、一人ひとりが自分らしく幸せに生きることは、人にとって普遍的な願いです。そのために、人が成長し、可能性を広げられる環境や機会を、社会全体でつくり上げていくことが重要です。

「知識を得る人」から「知識を土台に自ら問い、行動する人」へ

価値観が多様化し、社会の変化が激しい中で、人間に求められるのは、「自ら問いを立て選択する意思」と「他者や世界と響き合う情動」です。

明確かつ共通の正解がない人生を豊かに生きるためには、知識や技能の習得に加え、

- 自ら問いを立てる
- 多様な価値観を持つ人と関わる
- 試行錯誤しながら挑戦する
- 社会との接点の中で学び続ける

といった力を育むことが重要です。

3. プラチナ人財産業とは

人の成長や学びは、教育機関や人材ビジネスだけが担うものではありません。

家庭や地域、職場など、さまざまな社会活動を通じて生まれるものであり、企業・組織・団体も、それぞれの活動を通じて人の成長を支えています。働く人々にとって、自らの成長機会は勤め先を選択する際の重要な要素となっています。企業にとっても、人への投資は企業の持続的な成長を支え、人から選ばれる企業となるための重要な経営課題となっています。

私たちは、人の成長や学びを生み出し、支えるさまざまな活動が、互いにつながり、社会全体に成長機会を広げていく産業群を「**プラチナ人財産業**」と呼びます。

ここでの「人の成長や学び」は、年齢や立場によって固定的に捉えるのではなく、人と人との関わりの中で相互に生まれるものと捉えます。こどもの学びを支えるおとながその関わりを通じて学び、おとなの変化がこどもや地域に影響を与えるなど、さまざまな人が互いに影響を与えながら成長していくことを重視します。

本イニシアティブでは、学びの機会を提供する主体、それを利用する主体、活動を資金や場で支える主体をつなぎ、実践知を共有するとともに、資金や場を確保する仕組みを検討します。こうした連携を通じて、個々の取り組みの継続・発展と、新たな成長機会の創出を支えます。

その担い手は、教育機関や人材ビジネスに限りません。自社の人材育成を重視する企業、その活動を支援する企業・団体、こどもからおとなまで、地域での学びや社会参加、挑戦の機会をつくる自治体など、理念を共有するあらゆる主体が参加できます。

プラチナ人財産業は、こうした多様な主体の連携を通じて、誰もが自ら問い、選択し、社会と関わりながら、生涯にわたって成長できる社会基盤を形成します。

4. 基本方針

プラチナ人財産業イニシアティブでは、生涯を通じた成長を対象とし、一人ひとりが、自ら問いを立て、選択し、社会と関わり続けられる環境をつくります。そのために、多様な選択肢と挑戦の機会を広げ、一人ひとりの「意思」と「情動」を育むとともに、社会全体で人の成長を支える仕組みの構築を目指します。その実現に向け、以下の3つを基本方針として活動を推進します。

① 学びと社会をつなぐ

これからの学びは、学校や組織の中だけで完結するものではなく、社会との関わりの中で深まっていくものです。

学校、企業、地域、社会活動など、多様な場との接点を増やし、実社会との関わりを通じて成長できる環境をつくります。

② 多様な選択肢と挑戦機会をつくる

一人ひとりの価値観や可能性を広げるためには、年齢、所属、既存の経験にとらわれず、新しい分野や役割に挑戦できる環境が必要です。

「遊び」を人の成長の原点、「実践」を社会で役立つ知の源泉、「越境」を自ら問いを立てるきっかけと捉えます。こどもの遊びや探究、おとなの越境や実社会での実践など、多様な経験機会を広げ、世代や立場を越えて互いに学び、影響し合いながら、一人ひとりが自ら可能性を切り拓ける環境をつくります。

③ 何度でも自ら未来を選択できる社会をつくる

人生 100 年時代において、人は一つの役割やキャリアに固定されるのではなく、経験を活かしながら新たな可能性を広げていくことができます。

本イニシアティブでは、一人ひとりの**意思と情動**を尊重し、望むときに学び、挑戦し、何度でも自ら未来を選択できる社会環境の形成を目指します。

5. 活動内容

プラチナ人財産業イニシアティブでは、「こども」「おとな」「資金循環」の3つを主要なテーマとして、現状や課題等を整理するとともに、環境や仕組みのあり方を検討します。

これらの検討を起点として、①2050年に目指す社会像の策定、②その実現に向けた具体方策・ロードマップ・政策提言の策定、③先導的な取り組みの推進を一体的に進めます。また、3つのテーマを個別に検討するだけでなく、それぞれが相互に影響し合うものとして捉え、成長を支える取り組みと、それを支える企業や地域、資金等をつなぐなど、テーマ間の接点や連携のあり方についても検討します。

(1) こども関連

こどもの発達に合わせた**意思と情動**を育む機会の創出・拡大がテーマ。

当面の対象は、以下の2分野。

- 遊びの振興
こどもの遊びの現状、場所・機会、体制・制度のあり方
- 多様な探究学習の普及と質の確保
探究学習の現状と課題、情報プラットフォームの構築、高等教育との接続

(2) おとな関連

おとなが生涯にわたり成長し、新たな可能性に挑戦できる環境がテーマ。

- 越境機会の創出・充実
自己理解を促進する越境機会、よりよい越境体験の提案・実践
- 生涯成長
生涯成長を支える制度や仕組みのあり方

(3) 資金循環

人の成長を社会全体で支えるための資金循環のあり方がテーマ。

- 公教育への民間資金の循環
現状整理、資金循環のあり方
- 資金循環モデルの構築
プロジェクトベースの資金循環方策の検討・実践

(4) 2050年に目指す社会像の策定

3つのテーマをはじめとする検討を踏まえ、2050年の社会像を具体化。

(5) 具体方策・ロードマップ・政策提言の策定

2050年の社会像の実現に向けた仕組み・制度・連携のあり方等を整理し、具体方策、ロードマップ、社会・政策提言として発信。

(6) 先導的な取り組みの推進

社会像や具体方策の検討と並行し、社会実装につながる先導的な取り組みを推進。

(※) 以上は現時点の素案であり今後の議論で変更の可能性あります

6. 活動体制

プラチナ人財産業イニシアティブでは、ステアリングコミッティ、分科会、社会実装プロジェクト、未来人財コミュニティ等が連携して活動を進めます。

（１）ステアリングコミッティ

全体の方向性や活動方針を検討し、活動全体を牽引します。

（２）分科会

子ども、おとな、資金循環のテーマについて、課題整理、事例調査、実現方策の検討等を行います。

（３）社会実装プロジェクト

人財産業の形成に向けた具体的な社会実装を推進します。

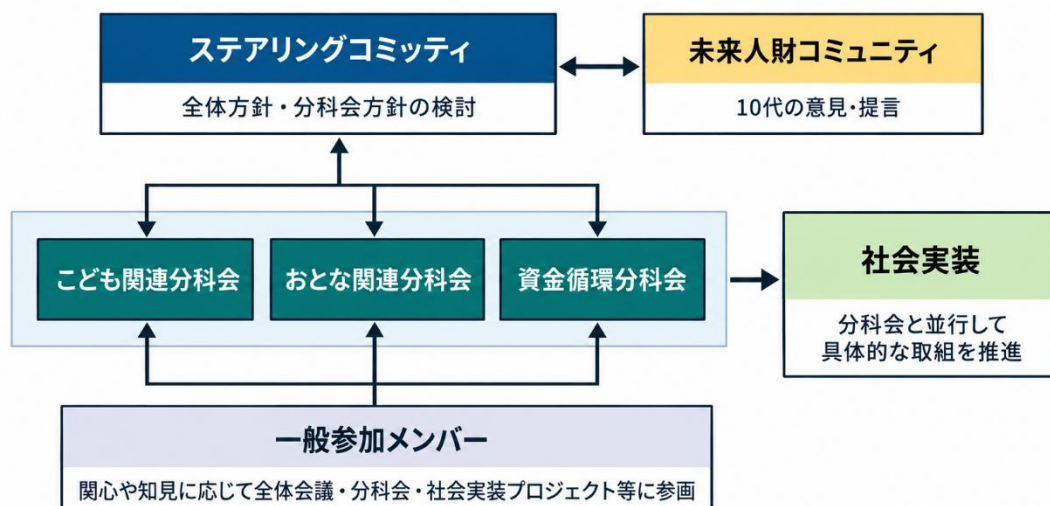
分科会での検討成果も活かしながら、分科会の枠を越えて、子どもやおとなの成長と資金循環が相互につながる取り組みを推進します。実践を通じて得られた知見や成果は、分科会等の検討にも還元します。

（４）未来人財コミュニティ

10代を中心とする次世代の参加者が、これからの社会や人財のあり方について考え、意見を発信する場として、フェーズ1で設計・始動します。コミュニティで得られた意見や視点を、イニシアティブの活動や2050年に目指す社会像の検討等に反映します。

（５）一般参加

全体会議、分科会、社会実装プロジェクト等に、それぞれの関心や知見に応じて参画します。



7. スケジュール

(1) 全体スケジュール

	2026年度		2027年度		2028年度		2029年度	
	9-12月	1-3月	上期	下期	上期	下期	上期	下期
1. 活動内容								
フェーズ0 立上げ準備・課題整理								
フェーズ1 ビジョン策定								
フェーズ2 実現方策・ロードマップ策定								
フェーズ3 社会実装・展開								
2. 意見交換会 ステアリングコミッティ	○	●	●	●	●	●	●	●
3. 分科会	○	●	●	●	●	●	●	●
4. 未来人財コミュニティ								
5. 先導プロジェクトの推進								
6. 勉強会・視察会								
7. 公表 (政策提言・啓発活動等)								

(2) フェーズ1のスケジュール

- ◇ 2026年12月 企画説明会
(ステアリングコミッティ委員長挨拶＋小宮山会長基調講演＋趣旨説明)
- ◇ 2027年2月 第1回全体会議
- ◇ 2027年2～4月 勉強会
- ◇ 2028年3月 検討成果の外部公表

【お問合せ先】

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

担当：長澤、林

e-mail：jinzai-form@platinum-network.jp

TEL 03-6858-3546 / FAX 03-5204-9563

〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 東急キャピトルタワー9階